



### ◎利根川架橋起工式に臨みて

先日私は六號國道利根川架橋起工式に參列の爲餘り乗つた事もない高級車パツカードに乗つて參列するの光榮を得た。このパツカードこそ大枚一萬金近くを投じて内務省が買入れた車だ、型も良ければ速力も速い、運轉手の話では裕に八十哩の時速を出し得る云ふ話だ、併しそれだけ優秀なスピードを持ち乍ら道路の悪い方には敵はないと見える、僅かに直線平坦箇所で三十哩を出したに過ぎなかつた、而も走つた道は六號國道だ昔から濱街道云つて我國主要幹線道路と喧しく云はれてゐる道だ。まだこの道路の改良が幼稚なものだ云ふことが分る、式場への順路を

て千住町を出て千葉縣松戸町に入つた。此の間千住新大橋迄は既に改修された立派なコンクリート道路が出来上つてゐてプラタナスの並木も生々として美しい、千住大橋も竣工式を舉げて間もないことにて自動車もさすが支障なく走ることが出来た。やがて鋪裝道路を離れて葛飾橋にかゝるこれも竣工のお祝のあつたのは先日の事だ、松戸町に入る路面路幅には大した變化もないが急にカーブの多くなつたのには閉口した、勿論田舎の小さい町は自動車なんて便利な品物を夢にだも考へなかつた時代からの歴史を持つてゐる。ガソリン臭い長大物の回轉等を考へて作られもしなかつたらうが我がパツカードは可なり苦しめられた、これは一人松戸町ばかりではない何れも町並に入るにすぐ苦しめられる一事件だ。松戸を後にするに同時に道は次第に悪くなり坂路も多く泥濘もかなりある。此の路は軍事上の關係から軍隊のトラック或はオートバイ等の交通が可なりあらゆるらしい。車を進めるにつれて度々是等に出會つた、何しろ此の地方は特有の丘陵性の山を澤山有してゐる、従つ

て坂路が多く急勾配のものもあつた。先達本省で開かれた土木主任官會議の指示事項中に道路標識に關する件が確かあつたはずだ、然るに此邊は標識の普及が不充分に見受けられた。坂を上り切るに同時に急カーブになり運轉手の面喰つた箇所も二三は云はなかつた「カーブは直線に坂路は平坦に」云ふは道路改良のモットーとする所だがこれを實現せしむるには限られた地方財政を以ては到底望み得ない望みだと思ふ、而し標識だけは成るべく普及させてもらひ度い。

やがて架橋地點たる我孫子、取手間の利根川畔に到着した。流石は坂東太郎の名に恥じず河幅も廣く水量も頗る多い。現在纔に渡船を以て兩岸の交通を連絡してゐるが、出水量の多い此の川としては毎年交通の杜絶される事も少くないこの事、全く其の不便は思ひやられる。其の災厄を免れんが爲に今起工の式典を擧げんとする新橋の工事概要は左の通りである。

起業者

千葉縣知事  
茨城縣知事

工事箇所

千葉縣東葛飾郡我孫子町大字青山立會  
茨城縣北相馬郡取手町大字取手

延長

五百二十六間

幅員

四間

工法

鋼構橋

國庫補助基本額

一、四三〇、〇〇〇圓

橋梁費

一、三三一、六一九圓

國庫補助率

九八、三八一圓  
橋梁費に對し四分ノ三  
道路費に對し二分ノ一

茨城縣側の河原に天幕を張り式場が造られてあつた。當日内務省からは内務大臣代理として丹羽道路課長の臨席あり森岡茨城縣知事鈴木千葉縣内務部長其の他地方名士の多數參列あり頗る盛大に壯嚴裡に式を終つたのは一時頃を記憶する。今茲に茨城千葉兩縣知事式辭内務大臣及道路改良會長の祝辭を紹介することにする。

式辭

六號國道千葉縣東葛飾郡我孫子町茨城縣北相馬郡取手町間利根川架橋工事ノ準備成リ本日テトシ多數來賓ノ貴臨ヲ得テ起工ノ式典ヲ擧グルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

本路線ハ由來、陸前濱街道ト稱シ東京ト東北海岸地方トヲ結ブ

幹線トシテ最も重要ナル道路ナルモ從來利根川ニ架橋ノ設備ナ  
 グ纔ニ渡船ニ依リテ連絡スルニ過キサルヲ以テ平常時ニ在リテ  
 モ交通量ノ減殺、時間ノ空費夥シク、シカモ一朝洪水ニ遭ヘハ倏  
 チ交通杜絶スルノ外ナク交通機能甚々薄ク茨城縣以北各地方ノ  
 産業開發上時運ノ進展ニ隨フヲ阻マルルコト尠少ナラス千葉、  
 茨城兩縣當局夙ニ意テ之ニ注キ關係地元諸彦亦架橋ノ機運促進  
 ニ盡瘁セラレタルコト多年ナリシモ縣ノ經濟ハ容易ニ之カ實現  
 ナ許ササリキ、然レトモ此ノ架橋ノ事タル獨リ千葉茨城兩縣ノ  
 福利増進ノミニ資セラルルモノニ非サルヲ以テ敢テ此事業ノ達  
 成ヲ企畫シ大正十五年度以降總工費百四十三萬圓ヲ千葉茨城兩  
 縣ニテ分擔シ其工費ノ四分ノ三ヲ國庫補助ニ仰キテ工ヲ起スコ  
 トト爲セリ仍テ工事ノ執行ハ專ラ茨城縣之ニ膺ルコトトシ其調  
 査ヲ進メタルモ本橋ハ利根ノ大河ヲ渡ル長サ九百八十三米ニ及  
 フ大橋梁ニシテ其ノ規模、構造ハ慎重推敵ヲ要シ苟モ忽諾ニ付  
 スルヲ得サルヲ以テ意外ノ日子ヲ要シ漸ク起工ノ運ニ至リシモ  
 ノニシテ架橋ノ機運醸成セラレシ時ヨリ今日ニ至ル迄ノ曲折經  
 過ヲ追憶シ本日ノ盛大ナル起工ノ式典ヲ擧ケ得タルニ想ヒ到レ  
 ハ衷心欣快ノ情禁スル能ハス

本橋完成セムカ地方産業ノ開發文化ノ進展ニ資スル所甚大ナル  
 ハ勿論行政上將タ又軍事上ノ樞要路線トシテ本國道ノ機能ニ劃

期的效果ヲ發揚スヘキハ信シテ疑ハサル所ナリ希クハ本橋建設  
 ノ事業ニ從事スル諸氏克ク其ノ任ヲ竭シ以テ開運ノ日ノ一日モ  
 速カナラシムルコトニ努ムヘク又關係地元各位ニ於テモ本事業  
 達成ノ爲格別ノ助力ヲ致サレムコトナ一言所懷ヲ述ヘ以テ式辭  
 トナス

昭和三年九月三日

千葉縣知事 福永 尊 介  
 茨城縣知事 森 岡 二郎

祝 辭

六號國道利根川架橋準備成リ茲ニ本日ヲ以テ起工ノ式典ヲ擧ケ  
 ラル

六號國道ハ陸前濱街道ト稱セラレ帝都ト東北地方トヲ連絡スル  
 重要幹線ニシテ我國陸上交通機關トシテ其ノ使命頗ル大ナルモ  
 ノアルニ不拘茨城千葉兩縣界ヲ限レル利根川ニハ從來橋梁ノ設  
 備ナク纔ニ渡船ヲ以テ連絡セルノ情況ニシテ近代交通ノ要求ニ  
 缺クル處少カラサリキ縣當局課ノ思ヲ此ニ致シ夙ニ架橋ノ計畫  
 ナ樹立シ政府亦之ヲ助成シ今乃チ其ノ起工ヲ見ルニ至ル邦家ノ  
 爲洵ニ欣慶ニ堪ヘサルナリ

念フニ本橋ノ架設ニハ精緻ノ技巧ト周到ナル用意トヲ必要トス  
 ルモノアルヘシ冀クハ官民協力最善ノ努力ヲ竭シ以テ之カ完成

ニ勉メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和三年九月三日

祝 辭

内務大臣 望月 圭 介

國道六號利根川架橋本日ヲ以テ起工式ヲ擧ケラル邦家ノ爲洵ニ  
慶賀ニ堪ヘサルナリ

願フニ地方ノ産業ヲ開發シ民主ノ福祉ヲ増進スル道路交通ノ便  
ヲ圖ルヨリ急ナルハナシ抑本橋ハ大利根ニ架セムトスルニ在リ  
テ古來渡船ヲ以テ纒ニ往來シタルニ過キサルカ如キ眞ニ路政上  
ノ一大恨事タリキ今乃チ茨城千葉兩縣當局ノ努力ト政府ノ助勢  
トニ依リ茲ニ架橋ノ準備成ルヲ告ク工事完成ノ曉之ニ依リテ交  
通上一大利便ヲ進ムヘシト雖工事ノ施行ニハ特段ノ努力ヲ以テ  
之カ完成ヲ期セラレンコトヲ一言述ヘテ祝辭トス

昭和三年九月三日

道路改良會長 水野 鍊太郎

丁度五年前の今日頃は云へば起工式の九月三日と云ふ  
ことに依つて誰しも聯想する事が出来ると思ふ、あの關東  
の大震災災を、そうしてこの時程架橋の必要を感じたこと  
はなかつたに當日集つた地方人士の等しく追憶する處であ

つた、やがて此の架橋の完成の上は確かに濱街道の交通史  
上一大革命を來すこと、喜んで期待したのである。それに  
してもこの長大橋を架設するには可なりの苦心と困難の伴  
ふこと、思ふが切角當局者は最善の努力あらん事を望む次  
第である。

雨の夏は今年の事を云ふのであらう。殆んど毎日雨降  
り續きで閉口した代りにはこれは亦暑いと云はねばならぬ  
日にてはほんの数へる程もあつたであらうが、併し其の日  
は珍らしく暑く照るは、夏中の暑さが一時に來たかの感  
があつた。御馳走の山に積まれた立食の宴會場も此の暑さ  
ではゆつくり箸を付ける勇氣も出なかつた、間もなく吾等  
のバックカードは土浦町に向つて長驅することになつた。藤  
代に入つて面白いと思つたのは沿道人家の軒下から路端迄  
相當に廣い空地が設けられてゐることであつた、古くは此  
濱街道の宿場として相當賑つたこと云ふ話だが其の面影は確  
かに認められる。此の空地には果樹の並木が植えられてあ  
つたは谷口道路主事のお話、現在一木も其の影の見えな

いのは頗る残念な氣持がした。これから先暫らく兩側に立派な老松の並木が茂つてゐる。電柱は道路を離れて鐵道線路に沿つて走つてゐるさか、道路には必ず付き物云ふ電柱が見えないのは何んだか邪魔物が取除かれたかの感じがして愉快だつた。蓴菜の産地牛久沼の邊りを走る時急に路幅は狭くなつたこれは左手に護岸の残骸がある爲とはすぐ分つた。近々これを取拂ひ擴張の計畫があるこの事ほんの僅かの間は云へなるべく早く取除かれんことを切望する。

遠く仙臺に達する六號國道としてはまだほんの一分を走つたに過ぎないがこの邊り道路の維持修繕は良く行き届いてゐると思つた。土浦は田舎の町に稀らしく簡易な舗装が施されてあつた、これは坂本土木課長時代に試験的に施行され其の後この効果と課長の熱心に動かされ内務省から補助して試験舗装を爲さしめつゝある箇所が尙縣内に九ヶ所あつたを記憶するが、此の簡易な舗装は坪當り一圓三四十錢を要し再び修補を要する迄破壊せられるのは相當の交通量があつても一ケ年は壽命があるを確たる記録が得られたこ

こは當時道路の改良に發表されたが、普通の砂利道でも坪七八十錢を要し而も度々撤布を要することから考へれば返つて此の簡易舗装の方が低價で而も交通に便なるは勿論、沿道商店等の利益は頗る大なるものがある事は言を俟たない、尙研究すれば低價を以て而も耐久力の大なるものが見出し得ると思ふが、此の如き稀らしい試験箇所を有する縣當局は切角の研究と時折のリポートを道路の改良誌上に於て拜見したいとお願する次第である。

今少し技術的知識と時間の餘裕が得られたならば尙面白報告が出来たらうにと思ひ乍らほんの通りすがりの紀行文を記して筆を擱かねばならぬのを残念と思ふ。擱筆するに當つて炎暑の折御案内下さつた皆様に感謝する。松尾生

### ◎丹羽幹事嚴父の計

幹事丹羽七郎氏嚴父今春來健康勝れず北海道後志の邸に靜養一旦小康を傳へられしが病勢頓に革まり九月六日溘焉逝去せられたり洵に哀悼に堪へず本會は生花を靈前に供し